

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習 Teaching Practice		1年・2年	集中	1年生では11月、2年生では6月に実施
単位数	授業の形態		授業の性格	
4単位	実験実習		選択 (教職課程必修 (幼稚園教諭二種))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育実習指導 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教育実習事前事後指導				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
藤原保利	本館2階	火・水・木・金の9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
1年次に観察実習を行い、2年次において参加、実習(部分・責任)の段階へと進み全体的な教育実習を行う。その実習過程を通して自立的な幼稚園教諭として必要は教職に関する知識・技術を習得し、併せて幼児に対する理解を深め、教師の仕事の楽しさと難しさを体験し把握する。				
授業の到達目標				
教師として就職する以前に自立的な教師としての自己の職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する経験を得ることができるようにする。大学で学んだ知識・技能を幼児との関わりのもとで検証し、新たな関心や課題を見出すことができるようにする。実証的、科学的研究態度で、幼児の最善の発達をもたらす保育を考えることができるようにする。				
授業の方法				
幼稚園における教師のあり方、学びについて考えながら、観察5日間、総合15日間の実習を行う。				
学習の成果				
○自立的な教師として必要と思われる知識、技能、態度を身につけることができる。 ○大学での学び、実習を通して得た経験を実際の保育の現場で活用することができる。 ○最新の幼児教育に関する研究成果に基づいて保育の内容及びそれを具体化する最適な方法を創意工夫することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	1年次〔観察実習5日間〕			
第2回目	・11月に5日間の観察実習に臨む。			
第3回目	・2年次に行う総合実習のためのオリエンテーションの意味合いを持ち、幼稚園に対する興味・関心を深め、			
第4回目	幼児に対する親愛の気持ちで育てる。			
第5回目	・年少、年中、年長の子どもの生活はどのようになっているのか、その発達の違いに気付いたり、			
第6回目	クラスに配属されることによって、1日の生活の流れや、個々の子どもについて、あるいは、保育者			
第7回目	の子どもとの関わり方について、観察し参加する。			
第8回目	2年次〔総合実習15日間〕			
第9回目	・6月に15日間の総合実習に臨む。			
第10回目	・幼児や幼稚園の実態についての理解を深めていくと同時に、具体的な経験を通して幼児指導(教育)			
第11回目	の方法や、保育者のあり方を学習し、保育者の職務についての理解を深めて、自己の保育者としての			
第12回目	適性についても考える。			

第13回目	・観察、参加、部分、責任の実習の段階を辿って経験し、子どもとの生活を通して、子どもについて
第14回目	あるいは保育者のさまざまな役割について具体的に学ぶ。
第15回目	ここで実習が完成されるわけではなく、また更なる自己課題を持ち、教育実習事前事後指導などの
第16回目	授業を通して、学を深めていく。
第17回目	《教育実習で学ぶこと》
第18回目	・「幼稚園を学ぶ」「幼児から学ぶ」「保育者から学ぶ」という姿勢で謙虚に臨む。
第19回目	・「実習生といえども、保育者の端くれなのだから、何か子どもに教えてやろう」などという
第20回目	思いあがった姿勢ではなく ○子どもを一人の人として尊重すること
第21回目	○子どもの目の高さになって考えること
第22回目	○子どもの気持ちになって理解する努力をすること
第23回目	といった基本姿勢をもって実習に臨む。
第24回目	更には、クラス運営、多様な仕事、環境の構成、保育計画、諸帳簿の整備についても、積極的に
第25回目	学んでいく機会とする。
第26回目	・実習日誌の記入を経験することで、子ども理解に努めながら指導の配慮や留意点についても学ぶ。
第27回目	・責任実習においては、子どもの生き生きとした活動を目指した指導案を作成し、責任を持って
第28回目	取り組むことで、幼児教育者としてのあり方に気付く。
第29回目	・実習後は自己への課題についての学習に取り組み、保育現場において必要な人材として自ら向上心
第30回目	をもって、知識・技術・人としての学びを深めていく。

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	100%	実習機関においての評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可に値する。(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容(態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

「教育実習の手引き」佐野短期大学 参考図書:「幼稚園教育要領」文部科学省

履修上の心得・ルール

教育実習事前事後指導を必ず受講し、明確な目的意識、課題を持って臨むこと。習熟度によっては実習に臨めない。
--

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育実習 Teaching Practice		2年	前期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
4単位	実験実習		選択 (教職課程必修 (中学校教諭二種(外国語)))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜の3から4時限、 火曜の3から5時限		授業中に指示します
授業の概要				
教師として必要な教職に関する知識・技術等を習得し、生徒の理解を深め、教師の仕事の喜びと難しさを体験的に理解する。教師として職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する経験を得て、大学で学んだ知識・技能を生徒との関わりのもとで具体的に検証し、さらに進んで新たな研究の課題を見出すように促す。				
授業の到達目標				
①教育実践を体験することを通して、教職に関する知識・技術等を習得し、生徒の理解を深めるようにする。 ②教師の仕事の喜びと難しさを体験的に理解するようにする。 ③教師として職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する経験を得るようにする。 ④大学で学んだ知識・技能を生徒との関わりのもとで具体的に検証するようにする。 ⑤新たな教育上の研究課題を見出すようにする。				
授業の方法				
実習における観察、参加、実践活動とそれに対する指導・助言を行う。				
学習の成果				
この授業を履修すると、あなたは、 ①教育実践を体験することを通して、教職に関する知識・技術等を習得し、生徒の理解を深めることができる。 ②教師の仕事の喜びと難しさを体験的に理解することができる。 ③教師として職務を遂行し得る最低限の教育実践に関する経験を得ることができる。 ④大学で学んだ知識・技能を生徒との関わりのもとで具体的に検証することができる。 ⑤新たな教育上の研究課題を見出すことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	教職の専門性			
第2回目	生徒の理解と指導			
第3回目	教職の倫理			
第4回目	学校経営・学年経営・学級経営			
第5回目	教育課程と指導の計画			
第6回目	特別活動の指導			

第7回目	道徳の時間の指導	
第8回目	総合的な学習の時間の指導	
第9回目	教科の指導 (教材研究、指導法、指導案、評価等)	
第10回目	中学校英語科の指導の計画	
第11回目	中学校英語科の指導の計画	
第12回目	中学校英語科の指導の実践	
第13回目	中学校英語科の指導の実践	
第14回目	中学校英語科の指導の評価	
第15回目	反省とまとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容 (態度含む)		
その他	100%	教育実習校での成績評価、実習巡回や普段の態度等を総合的に考慮して成績を付ける。
教科書と参考図書		
テキスト：『教育実習の手引き』佐野短期大学		
履修上の心得・ルール		
教育現場での実習のため、あらゆる面で細心の注意をおこたらないこと。		